

神戸女学院史料室だより

お蔭様で『学院史料』も第五号発行の運びとなり、創刊以来の「クラクション書簡」にも区切りがついた。本号の書簡訳出に協力した佐伯 陸・前嘱託職員は、出産退職後二年余を経て既に二児の母であったが、少ない余暇をやりくりして盡力。家政に専従した日月をむしる滋養としたかに見える精神的ふくらみを感じさせて頼もしかった。また、本号巻末の索引の学院史の項は、川村、佐伯、覚道諸姉により数年前より作られていた人名索引に基づいて構成されたものであるが、大野多佳子アルバイト職員は結婚(昨年六月、天満と改姓)のため、本稿をもってその仕事のしめくりとした。

一方、渡辺久雄顧問は昨年喜寿と金婚式を迎え、九月に、上は六〇代から下は二〇代にわたる教え子達が中心の祝賀会が開かれた。この祝いに臨み先生は、尼崎市に関する永年にわたる研究成果に「私の生い立ち記」を併せて『尼崎の歴史地理選集』を記念出版。渋い和紙の表紙をつけた一九五頁ほどの上品な装丁の書物は、先生のいつもながらの細密さを見せて、読みごたえがある。

なお今年度は、定期的に御恵授いただいている学院史・教会史関係誌に加えて、『明治初期神戸伝道とグリーン』『写真で見る新潟教会の歩み 1886-1986』『東北学院の100年』『創設期の同志社―卒業生たちの回顧録―』等の御労作を御恵贈いただいた。既知の事柄に親しみを、未知の事柄に新たな感興を覚えつつ、有難く読ませていただいている。